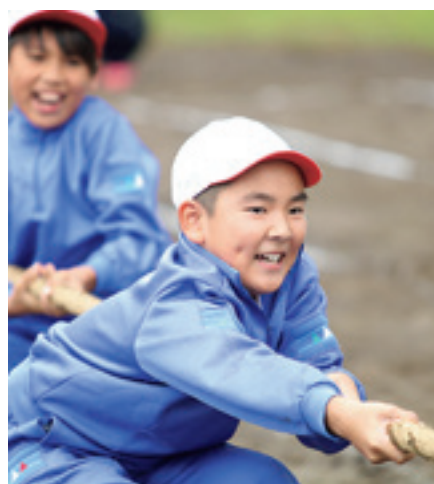




伊藤 練 君
(平館小)

結果は負けてしまいましたが、勝敗よりも運動会に向けての練習の過程が輝いていたと思います。

これまでのみんなの努力と気持ちのこもった応援で、小学校生活最後にふさわしい運動会にできました。



八幡 瑞希 君
(田山小)

白組応援団長としてがんばりました。応援はもちろん、組をまとめたり、全校リレーの走順を考えたり、みんなが全力で競い合い、協力できるように努めました。最高の運動会でした。



運動会

運動会の様子を報告してくれたのは、大更・平館・寄木・田山の4校。神楽や鼓笛などこれまでの伝統をつなぎ、競技はもちろんのこと応援や運営でも最上級生としての役割を全うしました。



【左上】平館小(9月20日)=3年生以上が岩手山神社山伏神楽を披露し、息の合った舞を見せた。
【左下】田山小(9月27日)=競技名は「ソーシャルディスタンス綱引き」。仲間との距離を十分に取ってワッショイ。4年生以上は3分間縄跳び抜けて180回にチャレンジ。
【右上】大更小(9月12日)=徒競走やリレーなど6年生が迫力のレースを展開。競技以外でも係活動に取り組む成長した姿も見られた。チャンスレースは親子の愛情の深さが勝敗の鍵!?
【右下】寄木小(9月26日)=伝統を引き継いできた鼓笛隊。6年生のリードで運動会を華やかに。



津志田 愛奈 さん
(大更小)

新型コロナウイルスや降雨の影響で、いつもより大変な中での運動会でした。そんな中でも赤組白組がそれぞれ団結し、全校で最高の運動会をつくり上げることができました。



田村 玲 君
(寄木小)

自分の出せる力を出して、全力で取り組むことができ、白組の団長としてみんなをまとめることができた運動会でした。中学校の運動会でも全力で勝ちたいと思います。

コロナ吹き飛ばす



思い起せば6年前の春。大きくピカピカのランドセルを背負い、お兄さんやお姉さんに手を引かれ登校してきた1年生。あれから6年の月日がたとうとしていきます。漢字もたくさん覚え、あのランドセルが小さく見えるほど体も大きくなりました。「最終学年では成長の証を存分に発揮する」。そんな一年を思い描き、保護者も期待していましたが、新型コロナウイルス感染症のため、令和2年度は臨時休校を経てのスタート。運動会の延期や市内小学校陸上記録会中止など例年とは異なる学校生活でした。

コロナ禍のときだから、大きな成長を遂げている6年生。行事の中止や縮小があろうが「あのころはコロナでもーだった」と笑って思い話に花を咲かせる。そんな光景を思い描き、広報はちまんたいは、6年生の思い出づくりを後押しします。各校から写真を提供いただき、運動会・学習発表会・修学旅行の6年生3大イベントを代表児童のコメントと共に紹介します。コロナに負けず、力を合わせて全力で駆け回り、熱い絆で感動を届け、友達と大切な思い出を心に刻んだ格好いい姿を後年に。

最高の思い出を刻もう



ゆきな
田村 恭奈さん
(柏台小)

私たちの修学旅行は県南方面でした。狛鼻溪では舟下りや運玉投げをして楽しみました。津波伝承館では津波の恐ろしさを学び、事前学習の講話にあった「高台へ」を実感。たくさん思い出ができました。



れん
日景 蓮君
(平笠小)

ぼくの修学旅行での一番の思い出は、岩手サファリパークで多くの動物とふれあえたことです。エサがほしくてずっとバスと一緒に移動してきた動物が、とてもかわかったです。



れいな
石引 鈴菜さん
(田頭小)

岩山パークランドが印象に残っています。ジェットコースターに初めて乗ったので、一番楽しかったです。代表としてあいさつもがんばりました。旅行で学んだことをこれからの生活に生かしていきます。

修学旅行

修学旅行の様子を報告してくれたのは、田頭・平笠・柏台の3校。行き先は県南や沿岸方面で、改めて自分たちが暮らしている岩手のことを学びなおす、良い機会となりました。



【左上】柏台小(10月28、29日)＝狛鼻溪で舟下りを楽しみ、陸前高田では東日本大震災津波伝承館で命を守るための行動を学んだ。
【右上】平笠小(11月12、13日)＝中尊寺が境内に建立した光勝院で座禅体験。岩手サファリパークではたくさんの動物と触れ合った。
【右下】田頭小(10月7、8日)＝中尊寺や毛越寺で歴史を学んだほか、宮沢賢治記念館でイーハトーブの世界を感じ、岩山パークランドでは時間を忘れ遊び尽くした。



ク、手洗い、うがいを徹底し、自分たちの健康と家族の健康を守ろうと取り組みました。

そして、2学期に行われた運動会や学習発表会においても、与えられた条件の中でできる限りの工夫をし、どの行事も例年に負けないぐらいの大成に導いてくれました。コロナ退散の願いを込めた岩手山神社山伏神楽の勇壮な舞や館山陣太鼓、八幡平太鼓の響きが今でも心に残っています。長い歴史の最後を飾る安代小のマーチング演奏にも涙がこぼれました。どの学校でも6年生の頑張りがあり、コロナ禍の行事が忘れられない思い出として校史に刻まれました。このようにピンチをチャンスに変えてやり抜いた6年生の子どもたちに大きな拍手を送りたいと思います。

まだまだコロナの不安は消えませんが、本市の子どもたちはきつと乗り越えてくれると信じています。そしてその先には素晴らしい中学校生活が待っています。夢と希望をいっぱい膨らませて中学校に進む子どもたちをみんなで見守り応援していきたいものです。

学習発表会

学習発表会の様子を報告してくれたのは、寺田・松野・安代の3校。練習時間が短い中でも、仲間と共に協力して、最高の歌・ダンス・演劇を創り上げ、成長した姿を保護者に披露しました。



【左上】寺田小(10月17日)＝衣装や小道具もそろえて「バナナと殿さま」をコミカルに演じ、観客を楽しませた。
【左下】安代小(10月24日)＝高学年によるマーチング演奏で幕が上がり、リンドウが安代に根付いた物語を発表した。
【右】松野小(10月17日)＝男子と女子の社会科のテスト対決。不思議な呪文「タピオカ・ツンドラ」を唱え、歴史の旅に出発。物語同様、男女が協力して、劇もめでたしめでたし。



くれな
島山 紅風さん
(寺田小)

コロナ禍で観客が少なかったけど、いつもと同じくらい緊張しました。観客のみんなが笑ってくれたことがうれしかったです。思い出に残る小学校最後の発表会になりました。



しな
元木 詩夏さん
(安代小)

最後のマーチングは、これまで伝統を守ってきた先輩方に感謝して演奏できました。学年発表は、りんどう学習を通して感じた安代小のすばらしさや先人の努力を伝えることができ、充実感でいっぱいです。



かな
高橋 叶愛さん
(松野小)

私たちは男女の協力をテーマにした劇を発表しました。1人2役のため、セリフや着替えの場所など練習から何度も話し合い、完成に向けて協力しました。しっかり演じられてよかったです。

ピンチをチャンスに変えた子どもたち



八幡平市教育長
星 俊也

新型コロナウイルス感染症の拡大は、小学生の生活にも大きな影響を与えました。中でも6年生の子どもたちは、最上級生としての活躍の場をことごとく奪われ、自分たちの力をいつ、どこで発揮すればいいのか迷い、不安な1学期を過ごしたことを思います。

しかしこの間、子どもたちはじつくりと考えました。「当たり前」と思っていたことが実は決して当たり前ではなく、自分たちにとって本当に大切なものだった」ということを。そして「このコロナ禍の中で、自分たちができることは何だろう」と。

6年生の子どもたちは、まず全校児童の先頭に立って、マス